

きょうだい支援に取り組む背景 と課題解決のための活動など

成果・目標
(ロジックモデル)

アクティビティ
(活動)

- 主に「きょうだい」に向けて
 - ・居場所づくり (学習支援や遊び場の提供など)
 - ・親子参加型のイベント
 - ・同じ境遇にある人たちとの交流の機会
 - ・悩みを打ち明け、相談できる場づくり
- 主に「家族」や「親」に向けて
 - ・食事 (できる場づくり) や食材等の提供
 - ・同じ境遇にある親同士の交流の機会
 - ・レスパイト、家事支援など

- 主に「地域住民・市民」や「ボランティア」などに向けて
 - ・きょうだい支援に関する広報、情報発信
 - ・講演会、学習会
 - ・しょうがいのある子らを養育する家族と地域住民との交流
 - ・ボラ情報の提供、説明会や学びの機会
- その他
 - ・福祉の出前講座、しょうがい当事者と地域の子どもの交流
 - ・地域の様々な資源、関係機関などとの関係づくり

現状と課題
(仮説)

《 家族・親 》

- ・地域や社会との関係性 (繋がり) がほとんどなく、孤立しがち
- ・身近に相談できる人やいざとい時に助けてもらえそうな人、関係がない (少ない)
- ・しょうがいのある子の養育で精一杯
- ・親自身も疲労感・焦燥感・孤立感に駆られている
- ・生活にゆとりがなく、心的余裕がない
- ・食事づくりを含む家事全般にわたっても一苦勞 (手が回らない)
- ・父親の理解、協力も不十分
- ・しょうがいのある子を一時的に預ける場やサービスがない (知らない)
- ・緊急時にきょうだいを預ける場や公的サービスがない
- ・子への虐待

《 きょうだい 》

- ・きょうだいが抱える悩みなどを相談できる人、場が身近にない。孤独感を抱えている。
- ・しょうがいのある兄弟姉妹の存在を友達に話すことに戸惑い (躊躇い) を感じている。
- ・大人になっても兄弟姉妹の存在が結婚等に影響するのではないかと不安がある。
- ・きょうだいに参加できるイベントが少ない (ヤングケアラーが抱える課題に共通)
- ・社会参加の機会や人との交流が少なく、経験が乏しい。
- ・家のお手伝いなどのため、自身の勉強にも支障が生じている。
- ・心落ちつける居場所がない。
- ・金銭的な余裕がなく、塾にも行けない。

インプット

人財等 : 地域住民や地域の様々な団体、学校、関係機関、学生など
※ステークホルダーマップ参照
 資金源 : 寄附金、協賛金、助成金
※ファンドレイジング戦略
 物的資源 : 個人や企業等からの提供品、地域資源等の活用
※地域ネットワークやパートナーづくり

《 地域住民・一般社会・同世代の子どもたち 》

- ・しょうがいのある人とその家族に対する理解や関心がうすい、又は無い
- ・無理解、無関心
- ・つまりは、きょうだいが抱える特有の悩みがあることも知らない
- ・しょうがいに対して正しく理解していない、関わる機会がない

《 ボランティア・支援したい人や団体など 》

- ・きょうだいが抱える様々な事情を知らない。
- ・しょうがいのある人やその家族と触れる (関わる) 機会がない。
- ・何かしら支援したいけど何をすればよいのか、わからない。
- ・興味関心はあっても、問い合わせる先を知らない
- ・関わるうえでの必要な知識等が乏しく、学ぶ機会がない (情報が無い)

